



学校だより

末子配付

第6号ジャカルタ日本人学校
令和3年(2021年)9月30日
校長 緒方 克行
TEL: 021-745-4130

シミュレーション登校を再開して

久しぶりの対面授業。

ある教室では技術科の授業で中学2年生が木工作業をしていました。本来であれば、1年生で製作するものですが、ようやく取り組めるようになったのです。

「何を作っているの？」と聞くと「本立てです。」と返ってきました。「私も中学生だった時に本立てを作って今でも使っているよ。」と話すとニコリと微笑みを返してくれました。9月10日よりシミュレーション登校が再開されました。コロナ感染事態前は普通に交わされていた会話ですが、とても新鮮に感じました。

あいさつの声も、再開直後にはか細く遠慮がちに「おはようございます」と語尾がフェイドアウトしていくようでしたが、それが目を追ってはっきりとし、今では遠くから大きな声であいさつする子どもが増え大変喜ばしいことです。

また、休み時間に教室を回り、「正直言って、対面とオンラインではどちらの授業がいい？」と質問すると、全員から「対面授業がいい。」とはっきりと返ってきました。そこで、「オンラインなら疲れたときに横になれるから、その方がいいんじゃないの？」とさらに突っ込んで、**「だって友達と会える方がずっと楽しい！」**とキラキラした笑顔で話してくれました。

大人であってもオンラインでの会議は2時間が限度であると感じています。子どもたちはこれまで毎日6時間パソコンのディスプレイを見つめ、およそ1年以上オンライン学習に取り組んできたわけです。子どもたちは友達と自由に話せず、体を思いっきり動かすこともできず、どれほど辛かったことでしょう。学習内容の習得状況が心配なところで、子どもたち一人一人の学習状況の把握と補習が必要と考えます。そして、心の育ちも危惧するところです。「感謝」について座学で学ぶことは難しいことです。人と実際に交わりながら活動し、手伝ってもらった経験などを通して「感謝」する気持ちが芽生えるのではないのでしょうか。さらに、体力面は衰えてないのでしょうか。校内を回ると良い姿勢を保つことが難しい子どもも見受けられます。

この状況を引き起こしたコロナウイルスを恨めしく思いますが、耐えながら頑張ってきた子どもたちに拍手を送りたいと思います。まずは、州政府より体育の授業とリコーダーの演奏を解禁してもらい子どもたちの体と心を解き放していきたいと考えています。

保護者の皆様におかれましては、抗原検査など登校に向けてご協力いただき、ありがとうございます。教職員はこの状況下で行事など、どうにか取り組める方法はないかと日々探っています。これからもより澁刺とした学校生活となるように力を尽くしてまいります。

なお、これからも感染防止対策を取りながら教育活動に取り組んで参りますが、感染状況等によって急な授業形態や時程などの変更やお願いがあるかもしれません。キッズノートでお知らせいたしますので随時ご確認をお願いします。

インフォメーション

○学力テストについて

- ・ 昨年度の学力内容の習得状況を測るために学力テストを行います。これは成績には加味しません。テストの結果から学校で必要な補習をしていきます。ご家庭でも結果をご覧になっていただきご指導をお願いいたします。

○授業形態の状況にあった変更について(小学部)

- ・ ワクチン接種等で一時帰国していた子どもたちが、ジャカルタに続々ともどってきています。そこで、対面組とオンライン組で分けていた授業をクラスにもどし、学年の人数状況を見ながらハイブリッド授業にしていきます。

○J フェスについて

- ・ 昨年は中止となっていた J フェスを今年は、オンラインで行いたいと思います。これまでのとは形が変わりますが小学校 1 年生～中学校 3 年生までがつながり、学び合う一日にしたいと思います。詳しくは下記の欄をご覧ください。

○マスクについて

- ・ インドネシア政府より着用するマスクは、三層構造の布または不織布製ものと指示が出ています。二層のマスクであればティッシュ等を挟んで三層にして着用してください。

11 月 20 日(土) JJS フェスティバル開催決定

昨年度、新型コロナウイルス感染症により開催できなかった JJS フェスティバルを、今年度は 2 年ぶりに開催します。以下の理由から、例年とは異なる開催方法を取ります。

- (1) 感染の拡大がどのような状況であっても今年度の開催を実現するため
- (2) 一時帰国中の児童生徒も参加できるようにするため
- (3) 一カ所に全校児童生徒が集まるような密を避けるため
- (4) この一年半のオンライン学習で培った ICT 活用能力の集大成とするため

これらの理由から、『今年度の JJS フェスティバルはオンラインでの実施』とします。

『オンラインでの実施』ですが、各家庭からの参加ではなく、現在のシミュレーション登校がこのまま続いている場合も、児童生徒はいつも通り学校に登校し、教室からオンラインで JJS フェスティバルに参加します。

J フェス名物『有志発表』、児童生徒が学習してきたことを発表する『学習発表会』など、これまでの伝統に新たな試みも加え、新しい JJS フェスティバルを創り上げます。